

No. 1306

氷の芸術

— 愛知・名古屋 —

愛知県名古屋市。1月21日、氷の祭典「第4回なごや氷まつり」が久屋公園で開れました。氷の彫刻コンクール。一般の部、調理師の部合わせて95人が寒風の吹くなか長さ1m縦50cm横25cmの氷柱に挑戦しました。今回の参加者の中には東京、大阪からかけつけた人もおり、これまでの最高。いずれも劣らぬ腕自慢たちが7つ道具で寒さも忘れて汗だくで奮戦します。一般の部に参加した女子中学生。なれぬ手つきでノミと氷に悪戦苦闘。それでもなんとか型になりました。彫り始めてから約1時間タカやライオンなど動物ものから幻想的なものまで多種多彩な作品が姿を現わしました。観衆の見守るなか、いよいよ注目の審査。作品はみんな見事な出来ばえ、結局名古屋市の寄田勝さんと東京の小野恒夫さんが愛知県知事賞を獲得しました。はかない命の氷の芸術あなたも一度挑戦してみませんか。

「父子手当」支給します

— 岐阜・八幡 —

「郡上おどり」で名高い岐阜県郡上郡八幡町。人口2万、5000世帯のうち母子家庭が116、父子家庭は15。町ではこの父子家庭の中で生まれたばかりの赤ちゃんから中学3年までの子供を同居、養育している父親に月額1万円の「父子手当」を支給することに決めた。中沢耕作町長は「国も県も父子家庭を軽く見ているようだが、それは気の毒なものです。母子家庭の医療費無料化を実現させたので、このさい父子家庭にもと踏み切った」「子連れ狼」といえばカッコいいが現実には厳しい。父子手当を受けている畑佐清さんは10年前奥さんに先立たれて以来、朝5時起床の生活が続く。食事のしたく、買い物もすべて自分でやる。畑佐さんは「ありがたいことです。もっと早ければ」と、この制度を歓迎している。離婚や妻が蒸発したり、父子家は増えている。ユニークな制度を作った八幡町の「父子手当」が今、話題になっている。